



写真等無断転載禁止

街中の貴重な緑で今起こっていること。

街中の貴重な緑で今起こっていること。日比谷公園や神宮外苑の木々の大量伐採、公園の再開発といった問題が全国で紛糾しております。街中の森林やわずかに残った木々も、昔から変わらず残った段丘崖などの環境上大切な地形も今や風前の灯の如く、一部の人たちによって開発計画が水面下で進む、そんな動きが驚くほどに加速し、「もういい加減にしてほしい」そんな市民の声がますます大きくなってあります。

千葉市においても、開発の蹄は今、これまで市民と行政と地主さんの協力で守ってきた地域の最後の森というべき市民緑地にまで及んでいます。中央区の「川戸の森」も、近隣住民のほとんどが知らぬ間に住宅会社の手に渡り、5月いっぱい立ち入りできなくなってしまいました。この森は小中学校、保育編、養護施設にも隣接し、子供たちは普通に森で遊び、近隣の人たちは毎日のように木陰の道を行き交う、そんな故郷そのものの大切な森。

千葉市若葉区 高田造園設計事務所 大平 湊子
 ます。今何もしなければ、街中の森ものどかな時代の名残を伝える畑も、今後遠くないうちにほとんど全てが消えてゆくことでしょう。

それまで森で遊んでいた子供たちの目の前で、木々がきられ、森が裸になり、たくさんの生き物たちが宿っていた木々はゴミのように積み上げられて片付けられる、もう、そんな光景は見せたくありません。人口減少の時代にあって、開発はいまだに法やプライバシーを盾に一部の利益のために、市民に知らされず、姑息に進む。今こそ、市民も行政も開発者も変わらねばなりません。



川戸の森。木陰の道を市民が自由に行き交う

地域をつなぐ開発のあり方を求めて、三者が一定の緊張感を持って尚且つ協力して、今ある環境や地域を尊重した開発のあり方を作り出さねばなりません。そのために、市民の想いと力が必要不可欠で、皆さんで森を守りたいという意志を持ってほしい、少なくとも、理解して欲しいです。

川戸の森を見守る会、千葉市民を中心とした有志によって発足しました。今後、地域を思って活動する方々と共に、大切な故郷、昔からの地域らしさ、わずかに残った大切なものを未来に繋いでいけるよう、取り組んでまいります。



森の環境を次世代につなぐ集い。川戸の森を見守る会が開催、参加者 93 名と森のこれからを語り合う(2023 年 5 月 29 日)

こうした場所は相続のタイミングを狙って開発者に狙われます。どんなに地主さんが思いがある方でも、土地を持っているだけで罰金のように多額の相続税が発生し、街の森や昔からの屋敷を守り繋ぐことができないという税制もまた、考え直す必要があります。

キノコ観察会のお知らせ： 7月2日の「第282回 下大和田観察会とごみ拾い」(主催：ちば環境情報センター)は、千葉県立中央博物館の吹春俊光さんを講師に「フィールドワークキノコをもっと知ろうーキノコの観察と分類ー夏」を実施します。キノコに興味のある方はぜひご参加ください。詳細は、同封の谷津田だより「イベントのお知らせ」をご覧ください。

千葉市緑区下大和田町開発計画に係る 環境影響評価方法書に関する説明会のご報告

NPO法人 ちば環境情報センター代表 小西 由希子

5月27日(土)、28日(日)9:30~11:30、誉田公民館第一会議室にて「下大和田町開発計画に係る環境影響評価方法書に関する説明会」が行われました。

事業者側からは、事業主体の美樹観光株式会社、国際航業(環境影響調査)、都市計画センター(開発計画や設計)が出席し、参加者は、27日(土)23名、28日(日)36名でした。

事業者による方法書の説明の後質疑。説明会の概要を千葉市に報告するため撮影・録音をするので了承下さいとのこと。

会場には、地元の方、市内や近隣市在住の方、学生はじめ20才の若者、保全活動をしている小学生とその保護者、研究者、新聞記者、市議会議員、市職員、保全活動している者、そして元千葉県知事堂本暁子さんなど多様な方々の参加がありました。

参加者からの主な意見や指摘された課題は以下のとおりです。

- 美樹観光浅川会長さんが、保全活動に深い理解をくださり、20年以上無償で土地を貸してくださったこと。そのおかげで保全活動によって多様な生きものが生息することができ、「環境省 生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されたこと、多くの子どもたちが豊かな自然の中で育っていったことへの感謝が網代さんから述べられた。



説明会には2日間で、延べ59名の市民が参加した(5月27日)

- 開発区域内に残る住居への生活環境への影響が甚大。開発により地域コミュニティが分断されることへの懸念
- 行政が許可を出したから影響が全くないというわけではない。その事業が妥当かどうか地域住民なり影響を受ける人が判断して、行政にこうですよ意見があれば出し、行政が判断するもの。我々が判断するための材料を出してもらわなければイエスとは言えない。
- 事業者の財務諸表が公開されておらず、事業遂行能力についても懸念があること(事業者にとって産業用地開発は初めての取り組み)
- 供用時には4000台/日の交通量を想定していることが明らかになった。しかし事業区域から中野インターへのアクセス道路は示されていない。現状では道路予定地の一部しか買収できて

おらず、農業振興地域のため道路を作るのは難しいと考えられる。方法書では、工事車両も供用時も、県道131号土気停車場千葉中線と下大和田17号線を走行することとなっている。特に17号線はすれ違いすら難しい住民の生活道路であるのに、交通が環境影響評価項目として取り上げられていないこと。

- 説明会開催の広報が、市や事業者のホームページのみで、影響を受ける近隣市住民への情報発信、近隣地域への説明不足が指摘された。
- 20代の若者から、雇用と言われるが、今の若者は車を持っておらず交通不便などにはいかない。企業を誘致できなかつたり雇用が生まれなかった場合、まるきり変わってしまった環境のゆくえや責任はどう考えるか。何百年も続いてきた自然環境が今の世代で打ち切られてしまう。この先生きていく下の世代を考えて開発計画をお願いします。自然を学ぶ機会を無くさないためにも配慮して欲しいとの意見には拍手が起こった。
- 選定項目や調査地点・調査範囲について(地下水・湧き水、現況地形などが環境影響評価項目で選定されていないこと、水生生物の調査地点を貴重種がいないところを選んで選定している事、哺乳類にとって調査範囲が狭いことなど)の指摘があった。
- 景観については、谷津田があり里山が重要な景観資源であるにもかかわらず、調査地点がす



質問する堂本暁子 元千葉県知事(28日)

べて開発エリアの外で、里山景観の調査、予測及び評価ができないようになってきていること。

- ・ 「環境省 生物多様性保全上重要な里地里山」「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」選定地であることがきちんと明記されていないこと。
- ・ 貴重な動植物が生息し、湧水（鹿島川を流下して印旛沼に注ぎ、私たちの飲料水源になっている）が豊富な地域であるが、開発エリアが広大なため、自然環境への影響が大きく開発したらもとには戻せないとの指摘が多く出された。
- ・ 子どもから「なんでいっぱい生きものがいるのにここでやるの。学校でも環境を守らない」という話を聞いているのに、どうして」と聞かれて答えられなかった。「僕は嫌だよ」と小学生の子どもが心配している。環境影響評価項目に「人と自然との触れ合いの活動の場」がある。どういう形で配慮を実現していくのか具体的に知りたい。

美樹観光 浅川剛司社長から、事業に対する思いや事業の将来性についてお話がありました。

自分も大和田地区で生まれて育ち、父母もいる。大和田地区は自然が多く小さい頃遊んだが、不便で発展せず人口も減っている。利益追求だけでやるのではなく、地域を活性化して貢献したい。物流の需要は多いが、雇用を生み出す製造業も誘致したい。その割合はまだ未定。

ここはインフラが比較的整っていないので、開発するのにインフラを整えなければならない。そのため莫大な費用が必要で、それを賄えるだけの企業誘致をしないと難しい。余裕がある事業ではないため

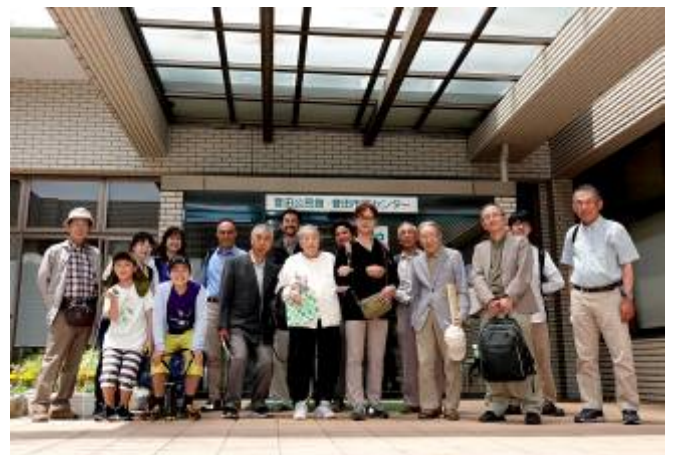
開発地域は市街化調整区域ですが、地区計画を定めて開発許可を取得していく手法をとるとのこと。それには市のマスタープラン策定が前提で、さらに地区計画づくりには住民等の合意が必要です。開発のハードルは相当高いように思われます。

6月1日、第1回千葉市環境影響評価審査会が開催され傍聴してきました。委員からは説明会で市民と同様の指摘がありました。方法書への意見書締め切りは6月9日で、市はこれをまとめて事業者に渡し、第2回の審査会で意見書をもとに審議が行われるそうです。引き続き経緯を見守り、会としてもできることを模索していきたいと考えています。

- ・ 千葉県では全国に先駆けて「生物多様性ちば県戦略」を策定した。開発するなら生きものと暮らせるような開発をぜひ。ちば県戦略に誇れるような場所にして欲しい。そういう開発ができれば谷津田を流れる川を「浅川」、森を「美樹の森」と名付けてもいいと思っている。
- ・ 誘致する事業者の業種やその割合が未定であること。製造業では、業種によっては排水問題等への懸念があり、その責任をどう考えているかの指摘
- ・ 千葉中地区で農家さんと協力して「谷津田米プロジェクト」としてブランド化していこうと取り組んでいる。田んぼに道路を造るのは離農の促進につながるのではないかと。百億単位の資金をどこが融通するのか、環境配慮を重視するこのご時勢で、計画自体が時代にそぐわないのではないかと。下大和田と中野町の広域の合同説明会を設置してもらえないかと。

自然を生かすつおこなうのはなかなか難しい。

社運を賭けた気持ちでやる。実際に地域活性化や貢献できるかは約束できない。ちゃんとやるのかと言われればそんなにできないかもしれないが、何かできることをやりたい。事業収支としてはさほどよくないかもしれない。正直ギリギリなところ。難しいハードルとかいっぱいある。むずかしいが、何とかやっていきたい。自分の地元でもあるのですばらしい産業用地にしていきたい。



会場の千葉市緑区誉田公民館の玄関前で(5月28日)

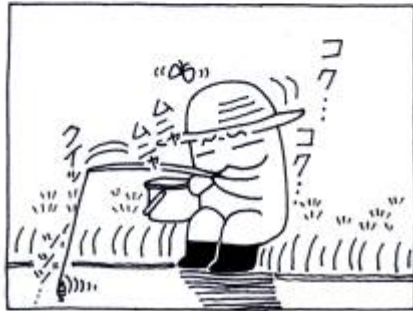
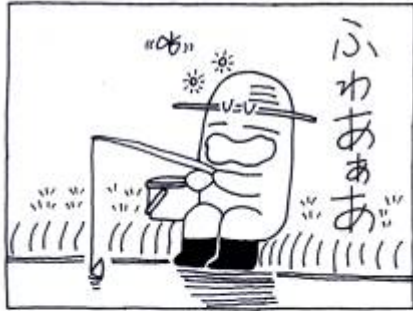
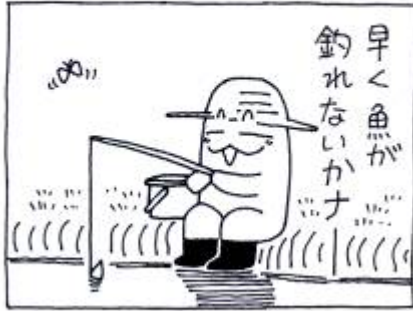
新浜の話64 ～行徳内陸性湿地再整備事業～

淡水の湿地がない、シルト中心の土質の問題、潮の干満が少ない等々、当初からの課題をかかえた保護区的环境について、思いきった改善を行おうということが具体化してきたのは1993年ごろだったか。トヨタ財団の研究コンクールで実現した上池・下池（後のト

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子
ヨタ池）がうまく機能したこと、そしてPNファンドの助成で行った干潟の砂入れも、すぐにチゴガニが住みつき、そこそこの方向が見えたことを受けて、こんなふうにとったらどうか、というプランが動きはじまりました。

スロマン²⁹

作:つやま あきこ



つやまあきこウェブサイト
21世紀絵コソジ~ <http://www.21eco.net>

大がかりな環境改変は、予算確保だけではなく、生きものへの影響についてもくわしい方々のお知恵が必要。そこで、専門の先生方をまじえた「行徳内陸性湿地再整備検討協議会」が開かれることになりました。第1回目は1994年3月1日。この年のうちに5回の協議会が行われ、具体的な改善事業が提案、決定されました。その後、年に1~2回の協議会が開催されて、その時々々の現況や問題点が話し合われ、2014年3月の第31回まで続けました。

協議会委員は、千葉県や市川市の担当の方々はもちろん、行徳野鳥観察舎友の会（現在は行徳自然ほごくらぶ）理事長の東良一さんをはじめ、東邦大学の故秋山章男教授（当時の干潟研究第一人者）、日本鳥類保護連盟の柳澤紀夫さん等錚々たる方々が。蓮尾純子も現場担当者としてメンバーに。それにしても、そもそも生きものための保護区という発想や、まして環境改善などに前例はなく、大がかりな現場実験とも言うべきものです。

「行徳内陸性湿地」という名称は（シリーズの17回目に掲載）、かつて、行徳地域問題審議会が開発促進の地元と自然保護運動との激しい対立に対して提出した答申から来ています。

- 新浜鴨場を含む約83ヘクタールを近郊緑地特別保全地区とし、内陸性湿地帯を造成する。
- 将来の埋立計画に鑑み、1000ヘクタール程度の干潟を確保する。（三番瀬の埋め立て回避の一助）

つまり、保護区はもともと蓮田や水田を含めた内陸性の湿地帯（おもに淡水）として設定されたわけです。しかし、答申が出された当時の事情から考えると、将来1000ヘクタールの干潟を確保することはとうてい実現不可能と思われていました。そのため、保護区の造成計画は淡水湿地ではなく、むしろ干潟が想定され、中央部の陸地に淡水の池を作るというものになりました。さらに、周辺の緩衝緑地や中央部の陸地を作るための土砂は保護区の中で調達されたことから、土砂採取で掘り下げられた深みが広い面積を占め、干潟とは程遠い状態ができてしまいました。

再整備工事はⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期の3つのステップで行われることになりました。Ⅰ期とⅡ期は連続して実施されましたが、Ⅲ期は結果を見てからということで、まだ実現の見通しはありません。

第Ⅰ期工事は1995年度で、1995年12月1日開始、1996年2月28日に検査が行われ、工事終了。下北岬と上北岬の二カ所の岬（軟弱地盤のため大苦戦）及び現在の百合池と三島池が造成され、観察舎前の導流堤（当時は天板にあたるコンクリートがむき出し）に砂と砂利を入れてコアジサシの繁殖をめざす、また池に揚水するためのパイプラインを設置する、というものでした。

第Ⅱ期工事は1996年度で、11月に工事開始。まず工事用通路を設置し、みなと池と上池の間の保護区中央部ほとんど全体に水質浄化と水鳥誘致用の柵田を造成、深めに掘り下げた長靴池から出た砂を小島岬に運び、干潟に押し出すという土木作業のほか、年明けから4カ所の観察壁を設置し、ポンプ揚水のための電気工事が行われました。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2023年 7月号（第311号）の発送を 7月 7日（金）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にて おこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒 _____

ふりがな 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: 6月4日の朝、下大和田で米づくりのまとめ役をしている平沼勝男さんから「田んぼのあちこちでたくさんのドジョウが絡み合い、泥が巻き上がっているのを見た」との連絡が入りました。ドジョウの産卵だそうです。先日、初めてこの田んぼに来た方から「生きものがあふれるようにいる田んぼはずごく久しぶりに見ました」とのメールが届きました。谷津田はそんなところなのです。 mud-skipper ♀

<小山町での活動>

☆5月期の活動 田植えシーズン突入 報告：たんぽぽ

今期最初の田植えはマイ田んぼにて、5月5日から開始されました。昨期は度重なるカモによる抜苗被害を受けたため、網やキラキラテープを導入、地元の方の方法も参考に水位を低めに調整するなど工夫を加えました。一定の効果はありましたが、対策が及ばない場所の被害は続きます。工夫や、補植を続け、頑張っ乗り越えて行こうと思います。

☆令和4年度期 大椎小学校田んぼ田植え実施 2023年5月9日(火) 報告：赤シャツ親父

前日までまとまった雨が降り実施が心配されましたが、当日は爽やかな好天となりました。昨期から5年生、6年生合同実施が導入されましたが、今期も同様に2学年合同実施となりました。小山谷津には子どもたちの明るい声と、ウグイスのさえずりがともに響き渡り、終始ほのぼのとした雰囲気でした。大勢のボランティアさんにも参加頂き大変順調に終わることができました。

☆第215回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」 2023年5月13日(土) 報告：たんぽぽ

やや肌寒い曇りでした。小山 YPP 活動による今期最初の田植えは4人のスタッフにより順調に進められました。今後は個人作業を並行して行き、着々と進める予定です。参加者4名(大人4名)

【谷津田・季節のたより】 2023年 5月

<下大和田町>

5/21 ホトトギスの鳴き声谷津田に響く。5/30 アライグマ捕獲 雄成獣 6.8Kg。今期2頭目、通算46頭目。

<小 山 町>

5/5 立派なカメノコテントウムシに会う。(たんぽぽ) 5/14 スイカズラの香りが谷津に漂う。セグロセキレイが若鳥に給餌。(高山) 5/19 ドクダミが一斉に開花(高山) 5/23 ホトトギスの初鳴き。ホタルブクロ開花。(高山) 5/26 オオヨシキリが飛来し、元気よくさえずる。(高山)

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・第291回 下大和田 YPP 「田の草取り①」(6月3日分が延期になりました)

日 時：2023年 6月11日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内 容：田んぼや畦に生えている雑草を取り除きます。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、飲み物、敷物

参加費：300円(小学生以上)、ちば環境情報センター会員は無料

・森と水辺の手入れ

日 時：2023年 6月18日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：自然観察路の整備や畦の補修作業などをします

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第292回 下大和田 YPP 「田の草取り②」

日 時：2023年 6月24日(土) 9時45分～12時 雨天決行

内 容：本格的な2回目の草取り。7月になると稲の根が張り、田んぼに入れなくなります。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、飲み物、敷物

参加費：300円(小学生以上)、ちば環境情報センター会員は無料

・第282回 観察会とゴミ拾い 「キノコをもっと知ろうーキノコの観察と分類ー夏」

日 時：2023年 7月 2日(日) 9時45分～15時 雨天決行

内 容：専門家の先生をお迎えして、初心者にもわかりやすいように、キノコ観察の基本を学びます。

講 師：吹春俊光さん(千葉県立中央博物館) ※10月1日(日)に「キノコ観察会 秋」を実施予定

持ち物：筆記用具、弁当、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

参加費：100円

<小山町谷津田>

▼第216回 小山町 YPP 「古代米の田植え」

古代米の田植えを行います。

日 時：2023年 6月10日(土) 10時00分～ ☆小雨実施。

場 所：りんどう広場

※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、赤シャツ親父(e-mail:tomizo_i@nifty.com)までご連絡ください。

